

タイの女性にとって、スカートをまたいだり、吊るしてあるスカートの下を通ると 災いが起こると信じられてきました。また息子が出稼ぎや徴兵で故郷を離れる ときは、母親は自分のスカートの切れ端をお守りとして息子に持たせて、無事 を祈りました。人々は若い娘の織った布の良し悪しで、嫁としての適性を判断 しました。このように一枚の「ぬの」には、東南アジアの人々の生活の知恵と祈 りと様々な思いが込められています。

ミャンマー(旧ビルマ)国内だけでも30近い民族がおり、インドシナ半島は多数 の少数民族が混在する地域です。各民族や部族は固有の言語、風俗を有し、 各々個性的な染織文化を発達させてきました。主要民族が支配する国家政策 と近代化により、これらの少数民族の自給自足の文化、特に固有の染織文化 が急速に消えつつあることは残念なことです。これまで東南アジアの染織という とインドネシアの染織紹介が日本では中心でしたが、今回はインドシナ半島のナ ガ、アカ、チン、カレン、ハカチン、ヤオ、カチン、モン、クミ、メオ、ファラムなど の代表的部族の貴重な衣服、染織品の数々を初めて体系的に紹介します。

インドシナ半島では、土着のアニミズムの自然、精霊崇拝を基盤にして、イン

ドからの上座部仏教(小乗仏教)の信仰が広く受け入れられてきました。本展 では、カンボジアの寺院に奉納された精巧な絣技法の絹製布、ラオスの葬儀を 知らせる動物をデザインした幟(のぼり)や僧侶の衣服など宗教、儀式の中で 使われた染織の数々を紹介します。

更に、インドシナ各地で人々が日常着用した衣服や布の数々を展示します。 ミャンマーでは現在でも男性はロンジーと呼ばれる筒形スカートを着用していま す。インドシナ半島では、男女とも各種の筒形スカートを伝統的にまとっていまし た。ラオスのスカートは裾部分が複雑な織技法などで装飾されています。タイで は、筒形スカートはマドミーと呼ばれる絣技法の絹製布で作られています。マド ミーの中間色系の微妙な色調は深みと神秘感を湛えており、約50点の作品を 陳列します。同時に貴族階級が用いた絹に金糸、銀糸をあしらった衣装も合 わせて紹介します。

本展はインドシナ半島4ヶ国に住む人々が生活の中で使用した19-20世紀 の古く珍しい染織品の数々150余点に写真、彫刻、機織り道具の資料などを 合わせて約200点で構成し、その多様性と魅力を紹介するものです。



ロンジー(筒形スカート)(部分) ミャンマー シャン州 20世紀初め 絹、銀







寺院用掛布(部分) カンボジア 20世紀初め 緯絣



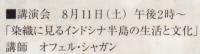
女性用上衣 ミャンマー、マラ族 20世紀初め 木綿、絹、ガラスビーズ、巻き貝 。緯浮織



儀式用幟(部分) タイ 20世紀初め 木綿



パ・スィン(筒形スカート) タイ、スリン地方 マドミー(絹絣) 20世紀中頃



(オリエンタル・アンティークスギャラリー京橋 代表取締役)

- ギャラリートーク
- 9月7日(金) 午後2時 当館主任学芸員 福井泰民
- ■美術映画会
- ◎8月25日(土) 午後2時~3時 NHKシルクロード「玄奘三蔵・天竺の旅」
- ◎9月9日(日) 午後2時~3時 「磯井正美のわざ一蒟醬の美」 (ミャンマーの古都パガンに漆器をたずねて)
- 美術相談
- ◎8月18日(土) 午後2時~4時 講師:戸田康一(日本画)、茂登山東一郎(油絵)
- ◎9月2日(日) 午後2時~4時 講師:大和屋嚴(水彩画)、宮田翁輔(油絵)



絹

